

未熟児の小児科外来への継続看護の検討

2階西病棟

○徳本 光姫・津田 るみ・浜渦 有里

山川 修子・西森由美子・谷脇 文子

I はじめに

当院周産母子センターでは、退院後の未熟児に対する支援体制として、地域の保健婦への継続看護連絡表の送付と、24時間体制で育児電話相談を受け退院後のフォローを行ってきた。退院後1ヶ月間の電話相談の件数が多い事を経験し、その後の支援方法について検討を重ねてきた。(第26回四国母性衛生学会で発表)。しかし、退院後は、小児科外来でのフォローアップとなり、医師及び看護婦の交代を余儀なくされる状況がある。退院後の小児科外来における検診時の両親への対応は、育児指導が大部分を占めており、長期にわたる児の入院中の経過や母子分離の状況などについての情報提供は、施設から地域だけでなく、施設内での継続看護の確立が必要であると考ええる。

そこで、今回、当院周産母子センターを退院した未熟児に対し、小児科外来へ継続看護連絡表(以下連絡表という)の送付を試み、小児科外来看護婦と未熟児の母親に対してアンケート調査を実施し、小児科外来との連携について検討を加えたので報告する。

II 研究対象

- 1) 平成6年9～11月の期間に当院周産母子センターを退院した未熟児5名
- 2) 平成6年9～11月の期間に当院小児科外来で未熟児を担当した看護婦2名
- 3) 平成6年11月に当院周産母子センターを退院した未熟児を持つ母親2名

III 研究方法

第1段階

- 1) 平成6年9～10月の期間に当院周産母子センターを退院した未熟児3名に対し連絡表を作成し、小児科へ送付する。

連絡表の項目：1. 入院中の経過(出生時の状態、入院中の治療、両親への説明)

2. 家族背景(家族構成、親子関係)

3. 地域との連携状況（保健所からの情報について）

4. 外来看護に期待する内容

2) 平成6年9～10月の期間に連絡表を送付した3例について、小児科外来看護婦に対しアンケート調査を実施する。

アンケート内容：1. 患者背景を把握することができましたか。

2. 外来看護をする上で役立ったと思いますか。

3. どのところで役立ったと思いますか。

4. 役立たなかった場合、どんな理由ですか。

第2段階

1) 第1段階でのアンケート調査結果をもとに連絡表の見直しを行い、新しく作成した連絡表（以下新連絡表という）を平成6年11月に当院周産母子センターを退院した未熟児2名について小児科外来に送付し、看護婦に対して再度同内容のアンケート調査を実施する。

新連絡表の項目：1. 児の紹介

2. 児の入院中の経過・処置

3. 家族背景

※4. 児と両親との関係……初回面会時の状況

初回面会以降の育児参加状況

母親の退院以降の育児参加状況

家族アセスメント

児の退院に向けての指導強化項目

5. 両親への説明

※6. 退院時の児の状態

7. 地域との連携状況

8. 外来看護に期待する内容

※は追加項目

新連絡表の1・2においては、項目をあげチェック方式とし、3以降は記述式とし、ケースバイケースで記入しやすいようにした。

2) 平成6年11月に当院周産母子センターを退院した2名の未熟児の母親に対し、外来受診（1ヶ月健診）時の状況についてインタビューによるアンケートを実施する。

アンケート内容：1. 小児科受診はスムーズにいきましたか。

2. 外来での看護婦の対応はどうでしたか。

3. 満足のいく診察が受けられましたか。
4. 育児上の不明な点、心配事を聞く事が出来ましたか。
それはどんな事でしたか。
5. 健診までに保健所からの訪問はありましたか。

IV 結 果

第1段階

連絡表についてのアンケート結果は、以下のとおりである。

送付した3例について、看護婦が事前に連絡表に目を通したのは1例のみであり、「受診後見た」1例、「全く目を通さなかった」1例であった。目を通した症例については、「どのような児が来院してくるかという情報を得る事が出来たが、活用できていない」との回答であった。その理由については、「周産母子センターの退院後の未熟児支援体制確立への意図が伝わらずテストケースとして受けとめていた」「来院時の母親への対応では、ケアプランを立てるには至らず情報の参照にとどまった」「小児科外来における看護計画立案の上で必要となる育児者に関する情報不足がある」との点があげられた。

以上の結果をもとに、小児科外来における連絡表の活用を促進をはかるため、次のことを実施した。1)連絡表送付の主旨について小児科外来看護婦に対して説明を行う。2)連絡表の見直し(新連絡表作成)を行う。

第2段階

新連絡表についてのアンケート結果は以下のとおりである。

1) 新連絡表発送後の看護婦へのアンケート結果

患者背景を把握できたかについては、いずれの症例においても「入院経過や両親の育児に対する姿勢などがわかりやすかった」と答えていた。外来看護をする上で、どんなところが役だったのかについては、「外来受付での対応時、意識して児と両親に接することができた」「診療介助に業務の都合上つけなかった場合にも診療終了後に連絡表を読み直し、児と母親について理解を深める事が出来た」「医師が予診をとるときに母親からの情報の補足として活用できた」等があげられていた。

役立たなかった理由は、「外来看護業務においては、間接業務が大半を占め診察に立ち会えないこともあり、個別的な対応は困難である」「育児相談に関しても医師が対応しており、看護婦は殆ど関わっていない」等があげられていた。一方、「連絡表の活用には難しい面も

あるが、看護婦としての役割を考える意識づけになり、今後、対応した結果を返送するよう
にしたい」との意見があげられていた。

以上のことから1.外来看護婦の対象への意識づけとなった。2.両親との対応について、外
来看護計画の参考となった。3.医師の情報収集に役立った。4.外来業務が繁忙のため、対象
者と接する時間が持てない現状がある、という結果が得られた。

2) 新連絡表発送後の母親へのアンケート結果

外来受診時について、母親は、「健診に対しては、スムーズであり医師の診察時に育児指
導を受け納得できたが、看護婦とは殆ど話しをしなかった」と答えていた。育児上の不安、
心配事としては、「母乳性下痢、溢乳」等であった。しかし、この他にも1名の母親は、健
診で体重増加不良を指摘され、アンケートを実施している間にも「赤ちゃん体操をする時間、
授乳時間の取り方」等について細かく質問があった。

両症例は初産で核家族、育児協力者は夫のみであり、保健所からの訪問以前の健診であつ
た。

V 考 察

核家族化が進み、育児を夫婦だけで取り進む家族が増えており、その上ある期間分離した
時期を経て児との生活を始める未熟児の両親においては、面会だけでは分からない児の状態
の多様性に戸惑いや不安をおぼえる事も多く、ほんの些細な事からも不安が助長され易いと
言われている。今回、育児支援の強化として小児科外来との連携を試み看護連絡表を送付し
たが、第1段階では、特に育児者に関する情報提供の不足により連絡表が十分活用されてい
ないことが判明した。そのため、児と両親との関係についてアセスメントした項目を中心と
した連絡表に変更した。修正後は、「内容的には活用できる」との事であったが、小児科外
来の繁忙な業務の中で、すぐには活用が難しい現状も浮き彫りとされた。症例数も2症例と
少なく、現状を把握できたとはいえなかったが、小児科外来へのこうした取り組みにより
「対応の結果を返送するようになりたい」との意見が得られた事は、周産母子センターと小児
科外来の連携の必要性が確認でき、意義のあるものだったと考える。現段階においては意識
づけにはなったが、看護婦が連絡表を活用するには至っておらず繁忙な外来業務の中で両親
と接する時間をどのように持つかが今後の課題といえる。また、小児科外来受診時に母親に
保健指導をするのは主に医師であり、情報提供の場を看護婦間レベルだけでなく、医師レベ
ルまで拡大していく必要がある。

1ヶ月健診時には、一般に育児不安が最も強くなる時期と重なると言われており、今回の2例の場合も例外ではなかった。当院周産母子センターでは、継続看護の一貫として、地域への継続看護連絡表を送付しているが、小児科受診が、保健婦訪問前であることもあり、適切な指導、不安解消の場として両親の小児科に対する期待が大きくなると考える。小児科においては、成長発達の経過をフォローしてだけでなく、児を中心にした家族の教育の場でもある。特に長期にわたり定期的なフォローアップが必要とされる未熟児においては、医療者と両親との信頼関係の確立やネットワークシステムによる育児支援体制が望まれる。児とその家族を含めた退院後のフォローアップシステムを発展させていく上で、周産母子センターと小児科との連携はより重要となってくる。

VI お わ り に

小児科外来への継続看護連絡表の送付の試みは、継続看護に対する意識の向上においては有意義であったと思われる。今後、さらに育児支援の一貫としてこの連絡表を活用し、将来的には周産母子センター、小児科、地域とともに退院後の総合的支援体制の確立にむけて取り組んでいきたい。

参考文献

- 1) 橋本武夫：NICU退院児の包括的フォローアップシステム，NICU，Vol.4，春季増刊，1991.
- 2) 大野 勉：NICU退院児のフォローアップ，ネオネイタルケア，Vol.6，No.8，1994.
- 3) 今村淳子他：新生児医療と母子保健，乳幼児の保育，成長発達の問題を中心に，ネオネイタルケア，Vol.7，No.5，1994.
- 4) 仁志田博司：新生児医療をめぐる課題，ネオネイタルケア，Vol.7，No.5，1994.
- 5) 正常新生児の退院から1ヶ月間の育児相談，NICU，Vol.6，No.4，1993.
- 6) 大藪 泰：周産期の母子関係と愛着の発達，NICU，Vol.3，No.6，1990.
- 7) 出産前小児保健指導事業実施要項（厚生省通達資料第487号）

（平成7年2月16日，香川県にて開催の第28回四国母性衛生学会で発表）